

幸崎っ子海体験プロジェクト

三原市立幸崎小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 **社会奉仕** **自然**

体験活動場所・宿泊場所 江田島市・国立江田島青少年交流の家

【学校紹介】

○教育目標

「地域を愛し、夢や希望をもち、生きる力を身につけた子どもの育成」

○特色ある教育活動

①ことばの教育の推進

- ・国語科で培った能力を基本に、それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして、言語活動を充実させる『幸崎小授業モデル』を作成し、全教科で活用しています。

②縦割り班活動の充実による人間形成

- ・縦割り班活動を充実させ、人間関係を築く力の育成と規範意識の育成、基本的な生活習慣や社会参画への意欲や態度の育成を図っています。

③保幼小中連携教育の推進

- ・就学前教育から中学校卒業までの15年間の教育について、系統的・組織的に教育活動を行うことを通して、学力と人間関係力の育成、入学時の不安解消や校種間の心理的段差を乗り越える力の育成、教職員の指導力の向上を図っています。

○校長名：春田美恵子

○児童数（学級数）：117名（6学級）

○所在地：三原市幸崎能地3丁目16番2号

○電話番号：0848-69-0028

○URL：info@saizaki-es.mihara.ed.jp



全校合奏「幸に輝く」

【体験活動のねらい】

- 豊かな自然に触れる体験を通して、自然環境を大切にする心を育てる。
- 海での体験や勤労体験をすることを通して、粘り強さ・自ら考えて行動する力を身につけさせる。
- 他者を思いやる心・感謝の心、礼儀作法を身につけさせる。
- 多くの友だちと協力し体験的な活動をすることを通して、友だち同士を理解し合い、コミュニケーションをとりながら、仲間づくりを行い集団の一員としての意識をもたせる。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5月～7月	事前学習 ・体験活動と関連させた内容項目学習 ・学習テーマの設定、下調べ、活動計画作成 ・目標決定 ・係などの役割分担、準備	2 6 1 2	道徳 総合的な学習の時間 学級活動 学級活動	学校	学校職員
7月	・事前説明会(参観日)	1	総合的な学習の時間		
8月	・水産教室 ・水産教室	2 2	社会科 社会科	幸崎港	

8月 27日 ～ 30日	宿泊体験学習 ・カッター研修 ・班レクリエーション ・野外炊事 ・海辺の生物観察 ・海浜清掃 ・ウミホテル観察 ・オリエンテーリング ・かき養殖場見学 ・キャンプファイヤー ・家族への手紙 ・七宝焼き体験	3泊4日		国立江田島 青少年交流 の家	学校職員 施設職員 地元ボラ ンティア 漁協関係 者
9月 ～ 10月	事後活動 ・礼状作成 ・体験活動の感想文 ・活動のまとめ ・事後報告会(参観日) ・テーマに基づく活動のま とめ、成果発表会の計 画・資料作成 ・体験活動と関連させた内 容項目 ・地域の川・海の生物・環 境調査 ・地域の海浜清掃	2 1 1 1 10 3 6 4	国語科 学級活動 総合的な学習の 時間 道徳 総合的な学習の 時間 総合的な学習の 時間	学校 畑岡川 久和喜海岸 宇和島海岸	学校職員
11月	成果発表会 ・学習発表会	4	学校行事	学校	学校職員
12月 1月	・年賀状作成 ・保育所、幼稚園との交流	2 2	国語科 総合的な学習の 時間	学校	学校職員

【体験活動の概要】

○海辺の生物観察

江田島の荒代海岸で海辺の生物の観察を行った。講師として江田島市さとうみ科学館の西原館長さんを招聘し、海辺の生物と環境について専門的な指導を受けることができた。

児童は意欲的に活動し、ガザミなどカニの仲間や、貝の仲間など様々な生き物を見つけることができた。準絶滅危惧種の珍しいスナガニを見つけることもできた。また、環境悪化により海の生物にも変化が出ていること、絶滅の危機を迎えている生物がいることを知った。

豊かな海で、専門家から指導を受けることで、生物の多様性や海の豊かさについて体験的に学ぶとともに、自然環境を守ることの大切さに気づくことができた。



○海浜清掃

海辺の生物観察後、海岸で海浜清掃を行った。事前学習で、美しい海を守るために自分たちができる活動として計画したのが海浜清掃であった。

カッター研修や海辺の生物観察などの学習でお世話になった海に感謝の思いを込めて、また、豊かな海を大切にしたいという気持ちから、一生懸命清掃を行った。たくさんのゴミを集めることを

通して、漁業ゴミ・家庭ゴミ・大型ゴミと様々なゴミがあること、人々の生活と大きく結びついていることを理解することができた。

海辺の生物観察と海浜清掃を同じ日に、同じ場所で行い、活動を結びつけることで、環境問題や海浜清掃の意義について児童自身が考え、意欲的に活動することができた。



【体験活動の効果を高める事後学習】

○幸崎っ子海体験プロジェクト(総合的な学習の時間他)

9月～10月に、地域の海岸で海辺の生物観察と海浜清掃を行った。海辺の生物観察では、広島県環境政策課に講師派遣を依頼し、環境学習の講師を派遣していただいた。

宿泊体験活動の中で、海辺での生物観察や海浜清掃を行ったことで、地域の海に生息する生物や環境について調べてみたいという意欲が高まった。そこで、地域の海での海辺の生物観察と海浜清掃を計画し実施した。児童は、地域の海はゴミが多くて汚れており、生物も江田島に比べると少ないと考えていた。しかし、実際に調査すると、生息している生物は多様で豊かな海であること、絶滅危惧種に指定されている貴重な生物も生息していることがわかった。さらに、児童は自分たちの手でこの海を守りたいと考え、海浜清掃を行うとともに、環境ポスターを制作、学習発表会で保護者や地域の方にふるさとの美しい海の環境を守ることの大切さを訴えた。

このように、宿泊体験活動の中で学んだことをもとに地域の自然環境についての問題解決的な学習になるよう計画することで、意欲が維持、向上するようにした。また、活動を進めていく中で、地域に対する関心高め、郷土愛を深めていくことができるように指導者が意識して取り組んだ。

○学習発表会(成果発表会)

11月、学習発表会で、保護者や地域の方、全校児童に、宿泊体験活動や事後活動で学んだことや感じたことを劇を交えて発表した。

児童が書いた作文や振り返りをもとに台本を作成すること、また、「伝える」をテーマとし、学んだことをどのように表現すればより多くの人にうまく伝わるかを考えさせることで、相手を意識し、主体的に考えて取り組めるようにした。

発表練習や当日の発表を通して自分たちが学んだことを再確認するとともに、他の学年や保護者・地域の方による評価を頂くことによって、自分たちの成長を感じさせることができた。

【交流先や施設等との連携】

○事前

- 施設の担当者と電話やメールで打ち合わせをしながら、スケジュールの修正を行った。その後、施設を訪問し、施設の担当者や体験活動指導者の方と活動内容について具体的に打合せを行った。



- ・事前学習に施設の担当者を講師として招聘して説明を受けた。その後、管理職と担任と施設担当者で連携を行った。

○活動中

- ・天候等について施設担当者から情報提供を受けた。また、児童の健康状態について連携した。
- ・施設担当者と担任が活動内容や計画の確認をその都度行った。

○事後

- ・学校から礼状を出すとともに、来年度の宿泊体験活動について連携した。

【評価の工夫】

○教師の評価の工夫と活用

- ・4月から毎月月末と、活動直前、直後に児童アンケートを実施した。児童アンケートの結果から児童の実態を明らかにし、日々の学級経営や体験活動において課題を意識し、解決に向けて取り組んだ。
- ・振り返りのワークシートを「夏季学園のしおり」の活動ごとにすべて入れ、児童が活動や宿泊体験を振り返りやすいようにした。
- ・宿泊体験中、担任が活動の様子をスライドにまとめ、3日目の夜に活動を振り返るスライドショーを児童に見せることで、3日間の振り返りをより効果的にした。

○児童の自己評価の充実

- ・それぞれの活動後に振り返りを行う時間を設定し、アンケート結果の課題項目や活動のねらいを意識した振り返りと「がんばったこと・心に残ったこと・エピソード」を書かせた。
- ・夕方または夜にも1日の振り返りを行う時間を確保した。思い出川柳「今日一句」と「江田島で見つけた(美しさに感動した自然や景色)(輝いていた友だち)」、「明日に向けて(決意・自分へのメッセージ)」について書かせた。
- ・宿泊体験の学習後に、思い出の作文や、観点を明確にした振り返り「活動前の自分と活動後の自分をくらべて感じたこと・目標を達成できたかどうか」「これから自分に向けて(決意・がんばりたいこと・これから生かしていきたいこと)」を書かせた。また、「おうちの人から一言」を保護者に書いてもらい、児童の成長を評価していただいた。
- ・「思い出ベスト3」を話し合っ決定する授業を設定し、目標にそった活動だったのか改めて振り返りをさせた。
- ・事後学習で感謝の気持ちを表現するため、児童からのお礼の手紙を送付した。また、年末には年賀状を送付した。

【安全面の配慮事項】

○事前

- ・6月に担任が下見を行い、施設の担当者や体験活動指導者の方と打合せをした。移動経路や活動場所の安全確認、緊急時の受入医療機関の確認を行った。
- ・7月に参加職員5名で活動施設の下見・確認を行い、職員の安全面における共通理解を図った。
- ・児童の健康調査を実施し、児童の健康状態や緊急時の保護者への連絡先等を取りまとめ、引率者全員が情報を共有化した。
- ・家庭科で包丁の取り扱い方や熱湯の扱い方、ご飯の炊き方などを事前に学習した。
- ・体験活動を安全に行うため、活動時の注意事項や危険回避について事前指導を丁寧に行った。
- ・夏場に行く活動なので児童の体調を考え、過密スケジュールにならないよう、無理のない活動計画を立てた。また、熱中症対策予防として十分な水分と塩飴を準備した。

○宿泊体験中

- ・教職員の参加体制を強化し、例年よりも多くの人数で指導にあたった。
- ・活動中は、毎朝及び適宜、引率者が健康観察を行うようにし、常に健康状態に配慮し休憩を多めにとった。

【体験活動の成果と課題】

○県指標を用いた児童アンケートにおいて、4月からすべての項目で向上している。

- ・アンケート結果から教師が課題を見つけ、体験活動だけではなく、学級経営でも意識して取り組

むことで向上したと考えられる。

- ・3泊4日という通常より長い宿泊体験活動で、充実したプログラムを組むことができ、また振り返りの時間も十分確保できた。体験活動や振り返りを充実させることで、児童が自らの成長や意識の向上に気付くことができた。
- ・教師が事前学習—宿泊体験学習—事後学習—成果発表会とつながりを意識して取り組むことで、児童の意欲や意識が向上し続けたと考えられる。

○課題であった、「自己肯定感」、「課題発見・解決の力」、「がまん」、「自然への関心」が大きく向上した。

- ・児童の実態を把握し、課題解決のための学習計画を作成し、活動プログラムを組むこと、教師が意識して評価していくことで向上したと考えられる。

○保護者が児童の成長を実感している。

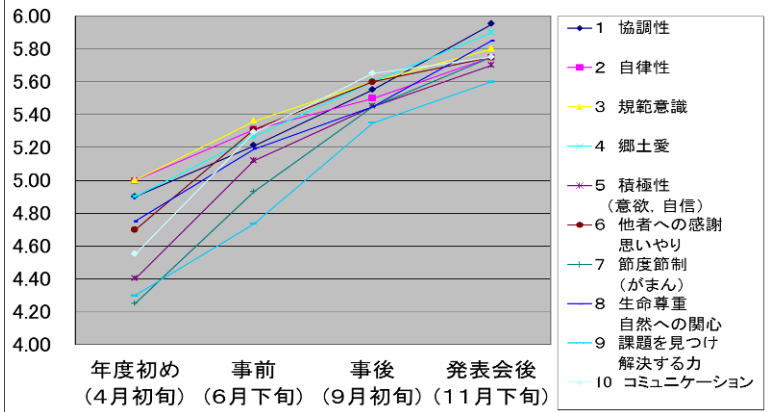
- ・宿泊体験後の保護者アンケートで「体験活動を通して子どもが成長したと思う。」という質問に肯定的に回答した保護者は95%。成果発表会後は、100%だった。
- ・保護者アンケートの記述からも児童の家庭での変容がわかる。

【保護者アンケートより】

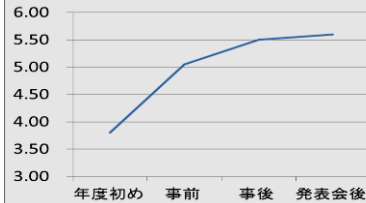
- ・積極的に手伝いをするようになった。
- ・普段学校では体験できない活動を通してたくさん学び、協力することの大切さを実感し、達成感を味わうことができた。
- ・根気強く何事にも取り組もうとする姿が見えるようになってきた。
- ・いろんなことに「やってみよう」と意欲が出るようになった。
- ・相手の気持ちを考えて行動するようになった。
- ・環境のことや海辺の生物のことなどよく話すようになった。

- 長期宿泊体験活動の継続が課題である。継続的な実施をするためには、保護者の理解が不可欠である。また、費用や活動のプログラムについても検討が必要である。
- 宿泊体験活動において交流活動を最初は計画していたが、準備をしていく中で、内容を変更せざるをえなかった。そこで、事後活動として地域での交流活動を計画している。

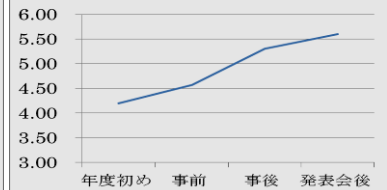
県の指標を用いた児童アンケートの結果



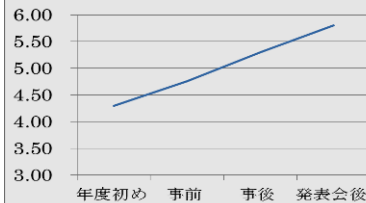
自分のいいところ分かる。



自分で問題点や課題を見つけることができる。



花や景色など美しいものに感動できる



腹が立ってもおさえることができる。

